



上川井だより

11月号

平成 29年 11月 1日
横浜市立上川井小学校
校長 山田 アイ子

「続けることの大切さと難しさ」

校長 山田 アイ子

10月30日(月)の1校時は、「第5回上小チャレンジカップ」の日でした。「上小チャレンジカップ」とは、全校児童が、毎日続けている「上小 Homework」の力試しテストとして行っている「学力向上」をめざした取り組みの一つです。1年生の繰り上がりのあるたし算の問題から、学年が上がると、大きな数のたし算やひき算、分数や倍数・約数の問題、6年生になるとコンパスや分度器を使いながら、作図したり、線分図をかいたりして考えなければ解けないような難しい問題もありました。時間は20分から30分ほどで終了、得点に応じて「パーフェクト賞」や「やったね賞」「がんばったね賞」を担任の先生からもらい、ファイルに綴じ込むところまでを45分間で行います。私が教室をまわっていくと「見て、初めてパーフェクト賞をとったよ!」と嬉しそうに教えてくれる子、その隣で「全部がパーフェクト賞!」という子もいれば、「まだ、一度もとったことないんだよ」と少し、残念そうな子もいます。でも、子どもたちは笑顔で「次は頑張る」「次も頑張る」と、元気な声で話しかけてくれます。子どもたちが、「上小チャレンジカップ」を一つの楽しみや励みにして頑張ってくれることが、この取り組みの願いでもあります。

先日、ある子どもが、私に「どうして、毎日上小 Homework をやるの?」と聞いてきました。思わず「どうして?大変?」と聞き返してしまいました。「簡単な問題が多いから、すぐ終わるけれど、毎日やるのが大変」の返事でした。「少しずつでいいから毎日やること、毎日続けることが、とっても大切で、それが積み重なると大きな力になるからだよ」と答えたのですが、話しかけてくれた子は「ふう〜ん…」とすぐには納得できないような表情でした。5分、10分程度で終わることでも、毎日続けることは、本当に大変です。

「上小 Homework」に限らず、こつこつと続けることの大切さは、分かっているけれど、それ以上に、続けることの難しさにぶつかります。一日10分やらなくても、三日分をまとめて30分やってもいいじゃないか、時間でいえば同じだと、続けられない理由を無理やり作ってしまうこともあると思います。毎日やることで、体が慣れていく、気持ちが慣れていく、習慣化されることで、いつもやっていることをやらないと落ち着かない…そんな気持ちになれたら、ずっと続けられるのだと思います。その気持ちに、たどり着くまでが難しいのだと、つくづく思います。話しかけてくれた子どもの気持ちも、よく分かります。

野球のイチロー選手の「小さいことを積み重ねるのが、とんでもないところへ行くただひとつの道だと思っています」の言葉を読んだことがあります。また、「小さなことで満足することってというのは、すごく大事なことだと思う」という言葉も耳にしたことがあります。深い言葉だと思います。

今、続けていることが、今すぐには役立たないかもしれませんが、すぐに結果につながらないかもしれませんが、でも、毎日続けることの大切さと難しさを知っている子が、本当にやりたいと思うことに出会ったときに、このことを思い出してくれたら、それは「学力向上」よりも、もっと価値のあることだと思います。そんな思いをもって「続けることの大切さ」を伝えていきます。